

■**笹森儀助** **維新後の国土混乱に、取り残された人々の視点から調査、不朽の名著「南嶋探験」を遺し、行政でも多面的に活動。**

ささもりぎすけ

阿部正弘**首座**1845＝ 陸奥国弘前で、津軽藩士笹森重吉・ひさの子に生まれる。

ペリー来航・1853＝ 8歳： 開国開港・・・1854＝ **9歳**： 藩校{稽古館(のちの東奥義塾)}に入る。

蕃書調所・・・1857＝12歳： この年、近所で、陸羯南が誕生。父が死去。家禄(150石)を継ぎ、小姓組になる。
五ヶ国条約・1858＝13歳： 安政の大獄始まる。
安政の大獄・1859＝14歳： **梶尾一刀流師範山田登に師事して、国防論者となり、**
桜田門外変・1860＝15歳： **遣欧使節**・・・1861＝16歳： {稽古館}を終える。

8月18日政変 1863＝**18歳**： 母が死去。

大政奉還・・・1867＝22歳： **山田の指示で、「国政改革意見書」を藩主の机上に置き、家禄三分の二を削られ、永蟄居処分になるが、**
明治維新・・・1868＝23歳：

初の日刊新聞1870＝25歳： **維新により大赦。弘前藩庁の租税係となり、**
廃藩置県・・・1871＝26歳： 廃藩置県で(弘前県、すぐ青森県と改称)、**新政府への弘前城引渡しを担当、政府役人の傲慢さに憤激。**
学問のすすめ1872＝**27歳**： 県庁第五課学務担当。**士族授産のため、牧場開設を検討し始め、**
明治6年政変 1873＝28歳： 西郷隆盛追放に抗議してか、依願退職するも、半年後、再採用。
佐賀の乱・・・1874＝29歳： **依願免職となり、西浜に隠棲。以後、教育や産業の振興に努め、失職した旧藩士の実情を調べて、就職の斡旋したり、会津藩が流された斗南地方に社倉を設立することに尽力。**
三つの内乱・1876＝31歳： 第三大区一小区戸長に任命され、区長に昇任。
西南戦争・・・1877＝32歳： 県庁第五課学務担当。**士族授産のため、牧場開設を検討し始め、**
大久保暗殺・1878＝33歳： この年、青森に、大道寺繁禎が主導した第五十九国立銀行設立。中津軽郡郡長になる。
琉球処分・・・1879＝34歳： 琉球藩が沖縄県となる。開拓使七重勅業試験場を視察。
・・・・・・1880＝35歳： 岩木山麓常盤野の土地拝借願を県に提出。
明治14年政変1881＝**36歳**： 明治天皇巡幸に弘前を加えるように陳情し、拝謁。**民権派に加担する県令山田秀典に反対して、辞任。**

秩父事件・・・1884＝38歳： 常盤野に転居し、弘前に牛乳販売店を開設するなど、辛酸を舐めながら、開墾、生産に努める。
内閣発足・・・1885＝39歳： 内閣創設とともに、陸羯南は、官報局編輯課長になっている。
帝国大学始・1886＝41歳： 上京し、芝に農牧社出張店を開設。中津軽郡長就任する大道寺に、代わって社長に選出された。
帝国憲法発布1889＝44歳： ***第1回帝国議会を連日傍聴して失望、地租軽減論の是非、各地の生産力と生活の実態を確かめるべく、**
帝国議会始・1890＝**45歳**： ***三重から鹿児島まで旅行して「貧旅行之記」を書き、各地の史跡についても詳細な調査記録を遺すと、**
大津事件・・・1891＝46歳： **県庁第五課学務担当。井上毅を通して上奏され、天皇も閲覧した。直後に郡司成忠が千島拓殖を行なう**
大本教・・・1892＝47歳： **この年、奈良原繁が沖縄県知事になり、皇民化に抵抗する謝花昇の戦いが始まる。_{農牧社}社長辞任。新聞{日本}社長になっていた陸羯南の助言で、千島列島巡行中の軍艦{磐城}に便乗。天皇の命により、先行して**

郡司千島探検1893＝48歳： **「千嶋探験」を自費出版。井上毅を通して上奏され、天皇も閲覧した。直後に郡司成忠が千島拓殖を行なうが、気候風土から困難であると、批判的であった。井上馨内務大臣から、国内製糖の振興のため、南島の糖業拡大の可能性を探るよう依頼され、すでに、沖縄各島の探検調査を行なうも、マラリアに罹って病臥する植物学者田代安定に教えを請い、ハブとマラリアが跋扈する沖縄・先島諸島に渡航、帰路、奄美群島にも立寄り、悲惨な生活に追い込まれている住民の姿を記録。**

日清戦争始・1894＝49歳： 政府に「沖縄県下八重山風土病の状況、並びに駆除方法意見」も提出。沖縄初の新聞(琉球新報)創刊なども含む、***これらを詳細に記した「南嶋探験」発刊。東京帝国大学の人類学教室の標本整理係だった島居龍蔵が同書の刊行直後に来訪、彼の後の探検につながることになる。惨状の最大の原因は人頭税だとしてその廃止を訴え、運動の指導者の中村十作と面会、宮古島では人頭税廃止運動が起きた。政府の意向での沖縄行ながら、政府および沖縄県庁の無策を糾弾するもの故、価値の高い記録になった。その経験が買われ、奄美大島島司を命じられると、糖業の振興と、島民が持っていた負債の償却に多く力を注ぎながら、**

日清戦争終・1895＝50歳： **大島島庁の管轄内ながら航路の無い川辺十島を、炎暑と疲労から倒れるなど、困難を乗り越えて、住民の実情や伝存文書・史跡などを調査、今日でもトカラ列島についてのもっとも詳細な報告書「拾島状況録」を著す。諏訪之瀬島では、火山活動で無人となった同島を再開拓した藤井富伝に出会い、**
白馬会・・・1896＝51歳： 奄美大島で天然痘が発生し、対策の迫られるなか、**「藤井富伝翁伝」を著し、日清戦争で日本の領土となるも、奄美と砂糖生産で競合する台湾を調査、台湾視察日記「台湾視察論」を執筆。**

子規句歌革新1898＝53歳： 沖永良部島に赤痢が発生し、対策に当たらせる。**大島龍郷町に西郷隆盛碑を建てると、奄美大島島司を辞任。陸羯南の推薦で近衛篤磨の創始した{東亜同文会}の嘱託となり、**
Bushidou・・・1899＝**54歳**： **日本語学校建設のため朝鮮北部の咸鏡道へ渡り、{城津学堂}を開いて学長となる。からさらに北方へ足を伸ばし、ハバロフスク近辺の東部シベリアの視察も行なったりするが、**

田中正造直訴1901＝56歳： この年、奈良原との戦いに敗れた謝花は精神に異常を来した。***寒さから体調を崩して帰国。学堂は廃止になる。その後は、近代日本の矛盾を見てしまったが故か、故郷に戻って、ほとんど口を閉ざすが、**
教科書疑獄・1902＝57歳： 初代市長工藤卓爾の推薦などで、**第2代青森市長就任。多額の税金未納が問題になっていて、調査したところ、**

日比谷公園・1903＝58歳： 青森市水道の敷設申請後、**青森市長を辞任、**
日露戦争終・1905＝60歳： 大道寺繁禎が設立した弘前五十九銀行の監査役就任するも、
韓国反日暴動1907＝62歳： 辞任。
アヲキ*創刊・1908＝**63歳**： 青森商業補習夜学校が、青森市立商業学校になる(のち県立)。
明治天皇没・1912＝67歳： 青森市立商業学校講堂に、自分と村本喜四郎の肖像が掲げられる。
21ヶ条要求・1915＝70歳： 生れ故郷弘前で、脳内出血で、**没した**
20年後、柳田國男は、「南嶋探験」の影響で折口信夫らとの{南島談話会}が発足したと語っており、いわゆるフィールドワークの先駆者であることを認めている。